

4. 市民意向調査

4-1. 調査要領

(1) 調査対象

- ・ 18歳以上の大和高田市民
- ・ 住民基本台帳からコンピューターによる無作為抽出

(2) 調査期間

- ・ 平成23年9月20日から平成23年9月30日まで

(3) 配布回収方法

- ・ 郵便による配布
- ・ 郵便による回収
- ・ 留め置き期間：約10日間

(4) 配布数と回収率

- ・ 配布数合計：3,000票

地域名	人口	配布数	回収数	回収率
A：都市中核部	12,153	600	229	38.2%
B：市北西部	17,623	600	198	33.0%
C：市北東部	12,995	600	179	29.8%
D：市中央部	15,886	600	190	31.7%
E：市南部	11,081	600	210	35.0%
無回答	—	—	21	0.7%
合計	69,738	3,000	1,027	34.2%

注) 人口は、住民基本台帳（平成23年12月1日現在）による

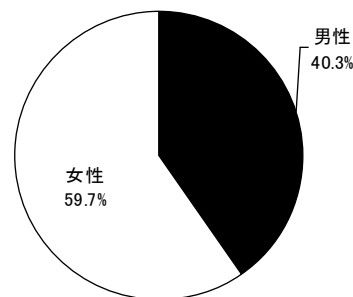
(5) 留意事項

- ・ クロス集計をした場合、元の回答者の一部に「無回答」の方がいる場合は、回答者総数が元の設問の回答者数と合わないことがある。
- ・ 回答者数の表示で「MA」とあるのは、複数回答（マルチアンサー）のことで、回答比率合計は100%にならない。

4-2. 調査結果

(1) 回答者の性別（回答数：1007）

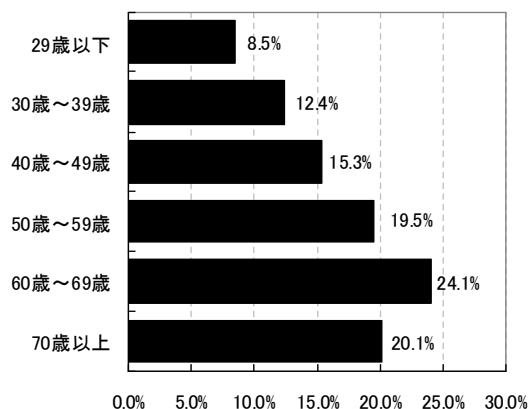
回答者の性別は、男性 40.3%、女性 59.7%で、女性の回答が男性の約 1.5 倍となっている



(2) 回答者の年齢（回答数：1013）

回答者数が最も多い年齢層は 60 歳～69 歳で全体の約 1/4 を占めている。

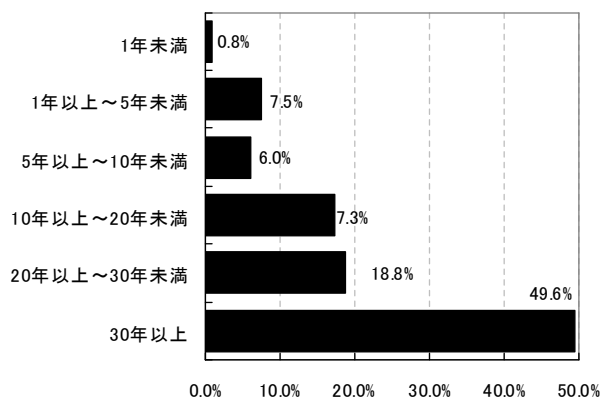
60 歳～69 歳の回答者数をピークとして、年齢層が若くなるにしたがい回答数が減少する傾向にある。



(3) 回答者の居住年数（回答数：1012）

居住年数が 30 年以上という回答者が約半分を占めている。

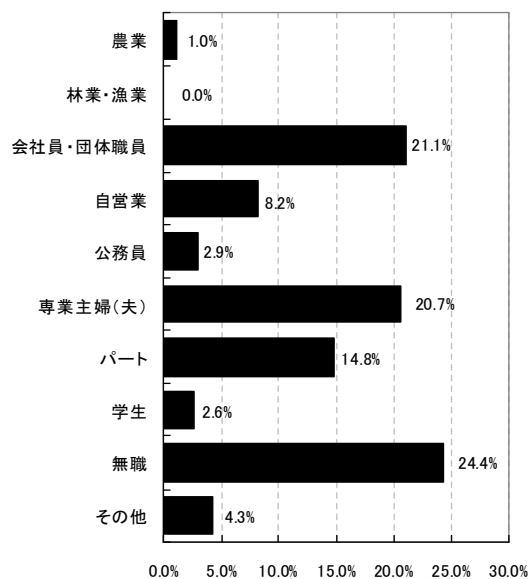
また、10 年以上居住していると回答した方は、全体の約 76%である。



(4) 回答者の職業（回答数：997）

60 歳以上の回答者数の多さを反映してか無職が全体の約 1/4 を占め、次いで会社員・団体職員、専業主婦（夫）がそれぞれ約 1/5 を占めている。

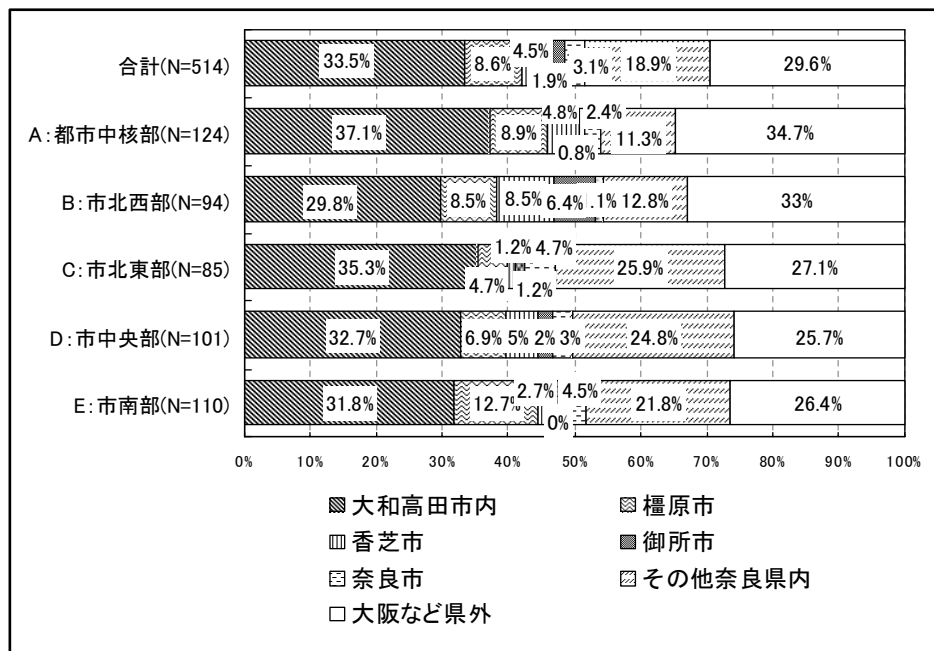
パートも全体の約 14.8%を占めている。



(5) 地区別通勤・通学先（通勤通学をしていない方を除く）

「市内」と「県内」及び「大阪など県外」に分けてみると、市北西部では「大阪など県外」が「市内」よりも多く、都市中核部では「市内」が「大阪など県外」よりも多くなっている。

市北東部、市中央部、市南部は「その他奈良県内」が多く、特に市南部では橿原市のウエイトが高くなっている。



(6) 日常の主な行き先

日常の買い物や、通院、文化・教養活動は、「市内」で用を果たしているが、買い回り品の買い物や休日の外出などは市外である。

買い物の内容	回答者数	1位		2位		3位	
		市町名	比率	市町名	比率	市町名	比率
通勤先・通学先	514	市内	33.5%	県外	29.6%	県内他	18.9%
食料品や日用雑貨などの買い物	862	市内	68.4%	橿原市	16.2%	県内	9.4%
外出着や贈答品などの買い物	762	橿原市	54.1%	大阪府	24.1%	市内	12.9%
休日の遊びや外出	743	県外	47.4%	県内	22.6%	橿原市	18.4%
医院や診療所	814	市内	79.6%	橿原市	6.3%	県内	6.3%
文化・教養活動、習い事など	637	市内	51.5%	県外	18.7%	県内	14.6%

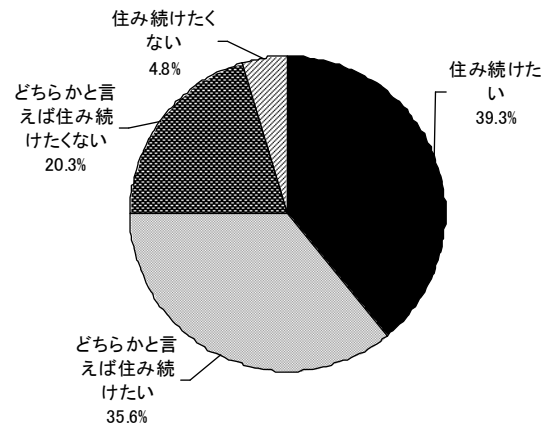
注) 1. 県内：大和高田市内、橿原市、香芝市、御所市、奈良市を除く奈良県内市町村

注) 2. 県外：大阪市などの県外

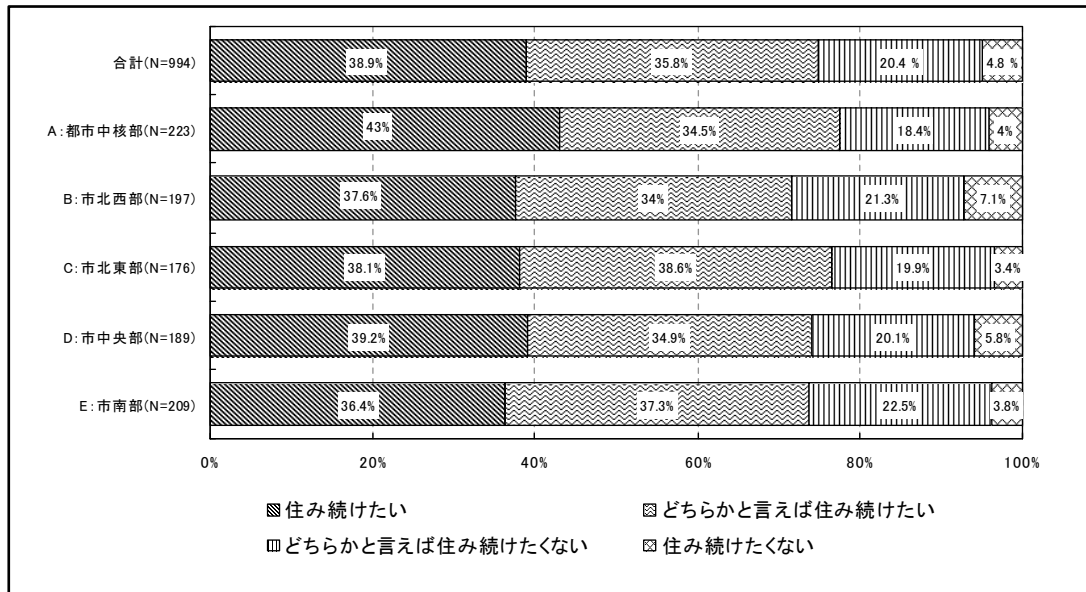
(7) 定住意向 (回答数: 1,005)

30年以上の居住者が多いことを反映してか、定住意向が全体の約75%を占めている。

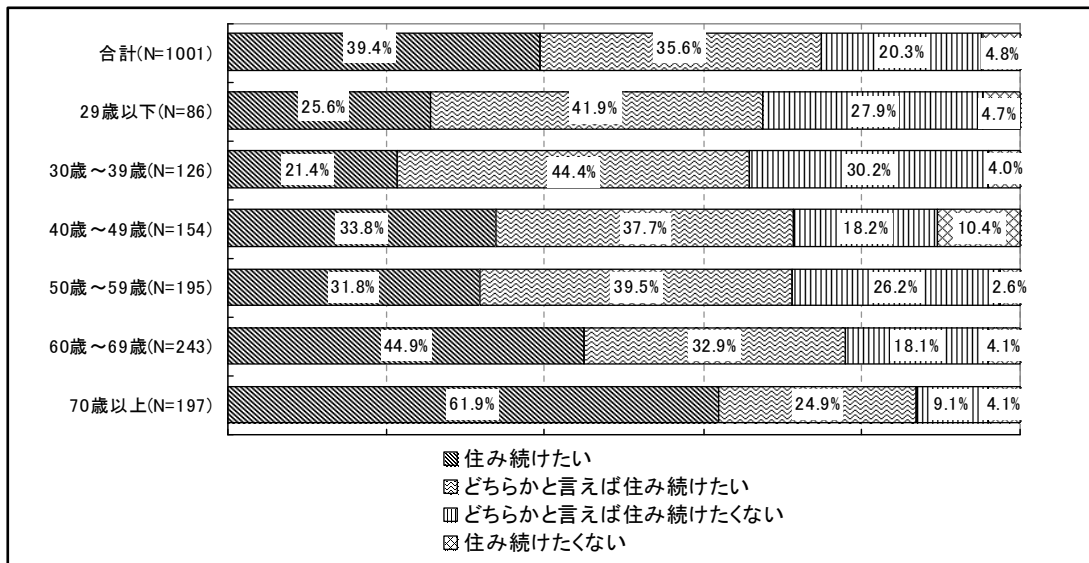
地区別にみると都市中核部で定住意向が高く、市北西部が非定住意向がもっとも高くなっている。年齢別では高齢層ほど定住意向が高く、若年層ほど低いが、30代で特に低くなっている。



【地区別定住意向】



【年齢別定住意向】



(8) 住み続けたくない理由 (MA回答者数 : 243)

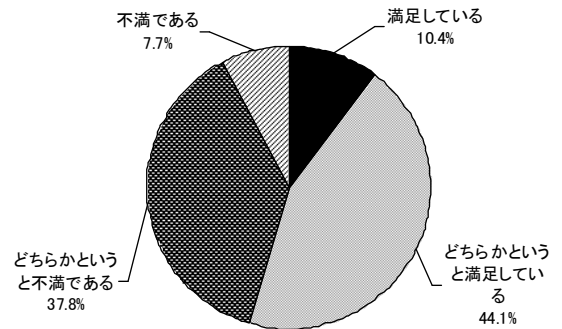
「住み続けたくない」と回答された方の理由は、「買い物が不便」が53.9%で最も高く、次いで「駅前などににぎわいが少ない」(32.5%)、「公園や緑地が少ない」(25.9%)、「高齢者や障がいを持つ人が暮らしにくい」(25.1%)となっている。

「その他」では、「まちのイメージが悪い」、「水道料金や税金が高い」という意見が目立つ。

	構成比
買い物などに不便を感じる	53.9%
公園や緑地が少ない	25.9%
洪水や地震等の自然災害が多い	4.9%
家賃や分譲価格が高い	4.1%
駅前などににぎわいが少ない	32.5%
通勤、通学の交通が不便	13.2%
高齢者や障がいを持つ人が暮らしにくい	25.1%
仕事で転勤になることがある	2.5%
保育所が少ないなど子育て環境が十分でない	9.5%
分家するにも近くに土地がない	2.9%
空き家などが増えてきて不安	5.8%
住宅等が密集していて建替や増築等ができない	7.4%
その他	37.9%

(9) 大和高田市の住み心地 (回答数 : 944)

満足と不満がほぼ半分ずつという評価である。住み続けたいという回答者が約75%あったことを考慮すると、定住意向を持つ方も必ずしも住み心地に満足しているわけではないことがうかがえる。



(10) 将来都市像 (MA回答者数 : 1,006)

将来都市像として最も多かったのは「医療・福祉が充実したまち」(70.0%)であり、次いで「商業が盛んな活気のあるまち」(47.3%)、「道路や公共交通の整った便利なまち」(41.5%)、「災害への備えがある安全なまち」(38.3%)、「良好な住環境を備えたまち」(36.8%)と続いている。

地区別にみると都市中核部では「商業が盛んなまち」「教育環境が充実したまち」を望み、市北西部、市中央部では「良好な住環境」を市北東部では「身近な水や緑」をと若干の違いがうかがえる。

	構成比
農業が盛んなまち	4.1%
工業が盛んなまち	3.8%
商業が盛んな活気のあるまち	47.3%
医療・福祉が充実したまち	70.0%
教育環境が充実したまち	23.0%
災害への備えがある安全なまち	38.3%
道路や公共交通の整った便利なまち	41.5%
良好な住環境備えたまち	36.8%
歴史や文化の薫りが高いまち	6.9%
身近なところで水や緑が親しめるまち	19.2%
その他	1.7%

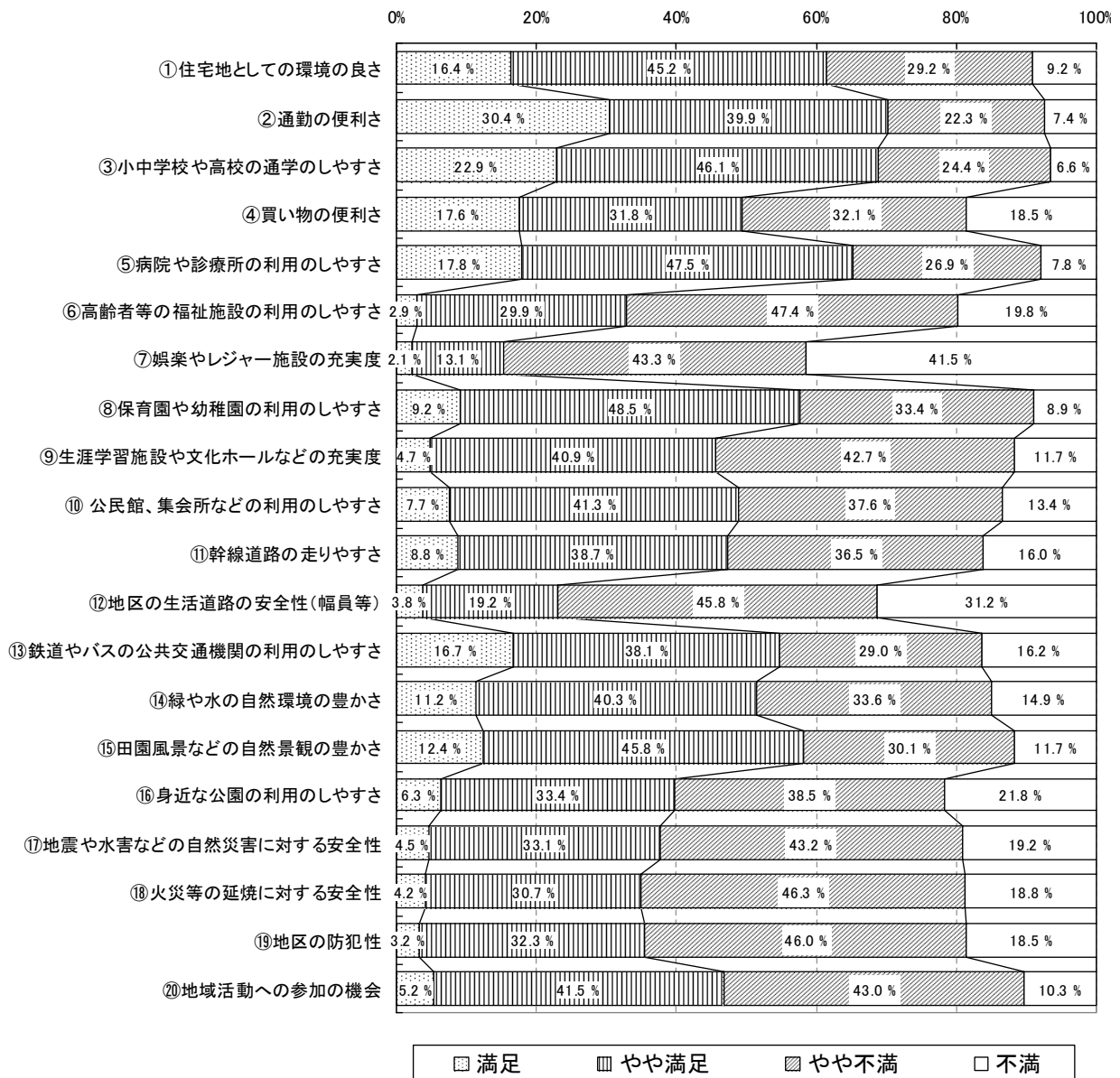
【地区別将来都市像】

	農業が盛んなまち	工業が盛んなまち	商業が盛んな活気のあるまち	医療・福祉が充実したまち	教育環境が充実したまち	災害への備えがある安全なまち	道路や公共交通の整った便利なまち	良好な住環境備えたまち	歴史や文化の薫りが高いまち	身近なところで水や緑が親しめるまち	その他
A: 都市中核部(N=225)	3.6%	4.0%	56.4%	64.4%	27.1%	32.0%	31.6%	40.0%	9.8%	21.3%	2.2%
B: 市北西部(N=195)	3.6%	3.1%	41.0%	74.4%	19.5%	41.5%	49.7%	38.5%	5.6%	13.8%	1.5%
C: 市北東部(N=174)	3.4%	4.0%	45.4%	69.0%	20.1%	43.7%	42.5%	27.0%	6.3%	28.7%	1.7%
D: 市中央部(N=186)	3.2%	2.7%	49.5%	74.2%	24.2%	41.9%	35.5%	38.7%	7.0%	14.5%	1.6%
E: 市南部(N=206)	5.8%	4.9%	41.7%	68.9%	24.3%	35.0%	48.1%	38.8%	5.3%	18.0%	1.5%

(11) 満足度と重要度

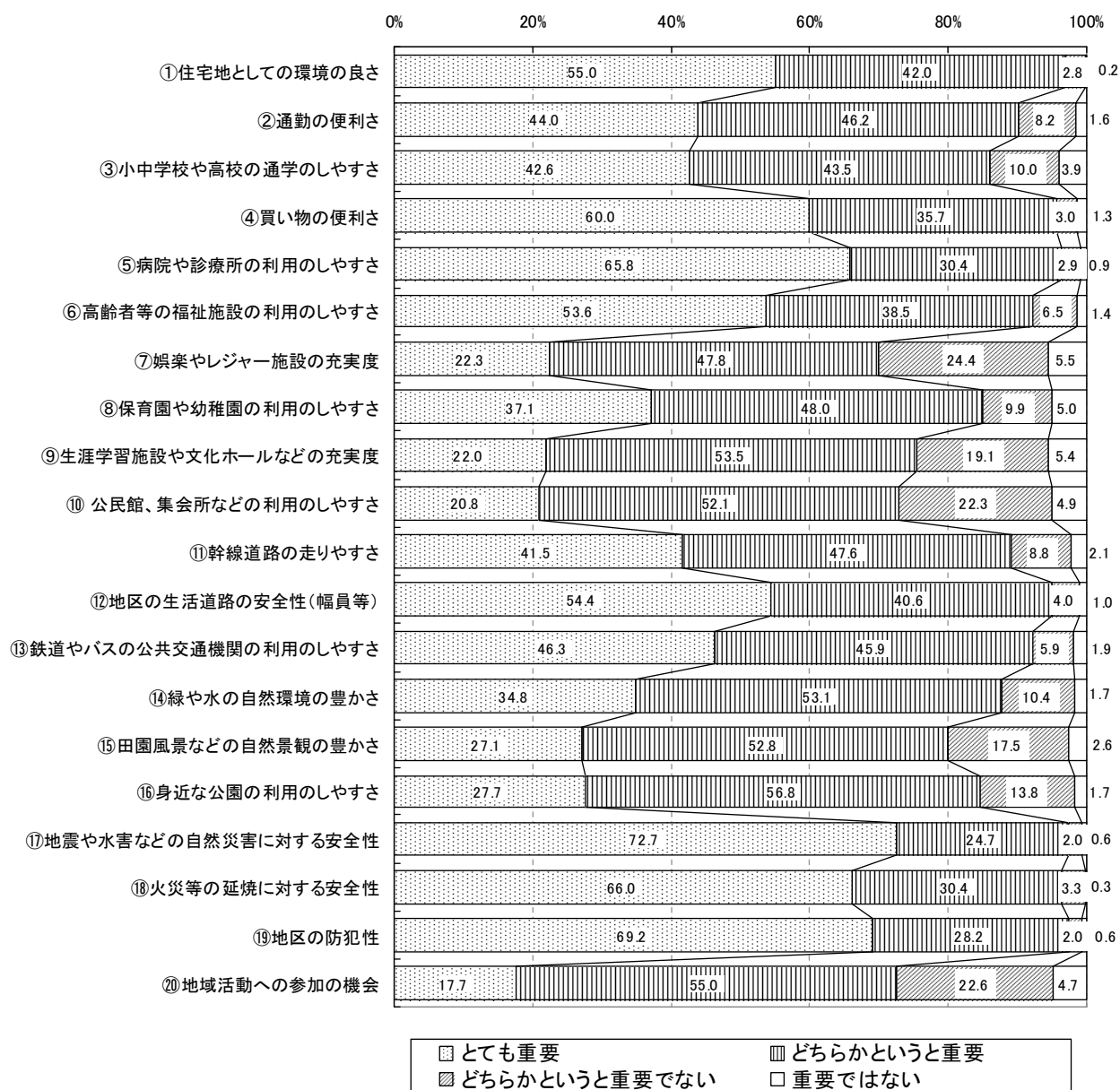
回答者の満足度が最も高いのは、「通勤の便利さ（約70%）」、「通学の便利さ（約69%）」、「病院や診療所の利用のしやすさ（約65%）」が挙げられ、次いで「住宅地としての環境の良さ（約62%）」、「田園風景など自然環境の豊かさ（約58%）」が挙げられている。

不満度の高い項目では、「娯楽やレジャー施設の充実度（約85%）」、「地区の生活道路の安全性（幅員等）（約77%）」、「高齢者等の福祉施設の利用のしやすさ（約67%）」が挙げられている。



回答者が「とても重要」と回答した中で高い比率を示しているのは、「地震や水害などの自然災害に対する安全性（約73%）」、「地区の防犯性（約69%）」、「火災等の延焼に対する安全性（約66%）」となっており、次いで「病院や診療所の利用のしやすさ（約66%）」、「買い物の便利さ（約60%）」と続いている。

「どちらかという重要でない」、「重要ではない」とされている中で高い比率を示しているのは、「娯楽やレジャー施設の充実度（約30%）」、「公民館、集会所などの利用のしやすさ（約27%）」、「生涯学習施設や文化ホールなどの充実度（約25%）」が挙げられている。



(12) 今後の都市施設等の整備について

① 今後の住宅地整備について (MA回答者数 : 981)

最も多いのは「住宅地内の狭い道路の拡幅や建て詰まりなどを解消する」(59.9%)、「高齢者、障がい者に配慮した住宅地を整備する」(40.6%)、「美しい街並みの住宅地の形成を誘導する」(36.2%)となっている。

地区別にみると、美しい街並みの住宅地は都市中核部で望まれ、狭い道路の拡幅は市北西部で多く望まれている。

	構成比
新しい住宅地を開発する	6.7%
住宅地内の狭い道路の拡幅や建て詰まりなどを解消する	59.9%
既存住宅地の不燃化を促進する	10.7%
人口が減少している農村集落部の居住環境を整備する	12.6%
高齢者、障がい者に配慮した住宅地を整備する	40.6%
駅前や幹線道路沿線の開発と一体的に中高層住宅を誘導する	18.1%
美しい街並みの住宅地の形成を誘導する	36.2%
今のままで良い	6.1%
その他	2.1%

② 今後の工業地整備について (MA回答者数 : 978)

「交通の利便性のよいところに新たな企業を誘致する」(53.8%)、「工場緑化など周辺との調和を進める」(50.3%)が、50%以上となっており、市民の要望が高い。

市北東部、市南部で「交通利便性のよいところに新たな企業誘致」を望んでおり、工業緑化の推進などを望んでいる。

	構成比
今ある工場の近代化、共同化を促進する	30.1%
交通の利便性の良いところに新たな企業を誘致する	53.8%
住宅と工場が混在しているところを解消する	40.9%
工場緑化の推進など周辺環境との調和を進める	50.3%
今のままで良い	7.8%
その他	2.4%

③ 今後の商業地整備について (MA回答者数 : 993)

商業地については、「商店街の空き店舗を利用して新たな施設や店舗を整備する」(48.2%)が最も多く、次いで「買い物がしやすいように駐車場・駐輪場を整備する」(42.3%)、「中心市街地の賑わいづくりを進める」(41.6%)となっている。

中心商業地の活性化については都市中核部、市中央部で高く、郊外に大型店を誘致するのは市北東部、市中央部、市南部に多い。

	構成比
中心商業地の賑わいづくりを進める	41.6%
住宅地の中の身近な店舗の活性化を進める	27.4%
郊外に大型店を誘致する	18.5%
幹線道路沿道へサービス施設を誘導する	12.4%
商店街の空き店舗を活用して新たな施設や店舗を整備する	48.2%
買い物がしやすいように、駐車場、駐輪場を確保する	42.3%
今のままで良い	2.2%
その他	1.9%

④今後の道路整備について（MA回答者数：996）

「現在の狭い道路を拡幅する」（48.9%）、
「安全に歩ける道路を整備する」（47.4%）
の二つが約50%近い比率を示している。

次いで、「自転車専用道路を整備する」
（24.9%）、「駅前など市内の拠点となる場
所との連絡を強化する」（22.1%）となっ
ている。

	構成比
市外と結ぶ広域的な幹線道路を整備する	18.1%
駅前など市内の拠点となる場所との連結を強化する	22.1%
現在の狭い道路を拡幅する	48.9%
安全に歩ける道路を整備する	47.4%
自転車専用道路を整備する	24.9%
横断歩道やガードレールなど交通安全施設を整備する	18.7%
交通渋滞をなくす	13.0%
その他	1.9%

⑤今後の公園・緑地の整備について（MA回答者数：996）

「身近な場所に子どもから高齢者まで
自由に使える公園を整備する」（56.9%）が
最も多く、次いで「散歩やジョギングがで
きる遊歩道・自転車道を整備する」（41.7%）、
「災害時の避難場所となるような大きな公
園を整備する」（30.2%）と続いている。

身近な場所の公園や遊歩道などが求め
られている。

	構成比
スポーツやレクリエーションなどが楽しめる公園を整備する	24.8%
身近な場所に、子どもから高齢者まで自由に使える公園を整備する	56.9%
災害時の避難場所となるような大きな公園を整備する	30.2%
水や生き物に親しめるような自然を活かした公園を整備する	15.8%
駅前や商店街の中に人が集まり、くつろげる広場を整備する	24.7%
散歩やジョギングができる遊歩道、自転車道を整備する	41.7%
その他	1.8%

⑥災害に強いまちづくりについて（MA回答者数：986）

「避難場所となる施設の整備や安全性
を高める」（57.3%）、次いで「火災などで
延焼の恐れが少なくなるよう道路を拡幅す
る」（42.2%）、「住宅など建物の不燃化や耐
震化を進める」（31.7%）と続いている。

安全な避難場所の確保や道路の拡幅な
ど、行政がすべきことに加えて住宅などの
建物の不燃化を進めるなど民間の努力も必
要と考えられている。

	構成比
住宅など建物の不燃化や耐震化を進める	31.7%
火災などで延焼の恐れが少なくなるよう道路を拡幅する	42.2%
避難場所となる施設の整備や安全性を高める	57.3%
備蓄倉庫など防災施設の整備を進める	23.4%
避難、誘導訓練などを充実させる	20.7%
河川、ため池などの改修を進める	20.2%
その他	0.8%

(13) 優先的に取り組むべき施策 (MA回答者数 : 1,006)

今後優先的に取り組むべき施策としては、「商店街の活性化」(53.3%)、「病院や高齢者施設の整備」(54.8%)の二つが高い比率を示している。

20%以上の比率を示している項目は、「防災施設の整備」、「公共下水道の整備」となっている。

地区別にみると都市中核部、市中央部で商業活性化、公園整備を、市北東部で病院や高齢者施設を、市南部で幹線道路や公共交通の整備、公共下水道整備を、市北東部、市中央部、市南部で河川緑地等の整備が望まれている。

年齢別にみると、高齢者は病院・高齢者施設、商業活性化が望み、若年者は教育文化施設、住宅密集の解消、街並みや景観の整備等を望んでいる。

	構成比
田や畑の整備	2.7%
工業用地の開発	6.2%
商店街の活性化	53.3%
病院や高齢者施設の整備	54.8%
教育文化施設の整備	15.8%
防災施設の整備	21.2%
幹線道路の整備	16.5%
電車やバスなどの公共交通の充実	16.7%
住宅地の開発	5.2%
住宅の密集状態の解消	10.1%
まち並みや景観の整備	15.5%
公園の整備	9.4%
雨水排水の整備	18.4%
公共下水道の整備	20.3%
自然環境の保全・整備	12.2%
河川緑地や遊歩道の整備	10.5%
その他	3.4%

【優先的に取り組むべき施策 (地区別)】

	田や畑の整備	工業用地の開発	商店街の活性化	病院や高齢者施設の整備	教育文化施設の整備	防災施設の整備	幹線道路の整備	電車やバスなどの公共交通の充実	住宅地の開発	住宅の密集状態の解消	まち並みや景観の整備	公園の整備	雨水排水の整備	公共下水道の整備	自然環境の保全・整備	河川緑地や遊歩道の整備	その他
A:都市中核部(N=226)	1.8%	5.3%	65.9%	48.7%	15.0%	19.5%	15.5%	11.1%	6.2%	12.4%	23.0%	13.7%	14.6%	10.6%	12.8%	9.3%	6.2%
B:市北西部(N=193)	2.6%	4.1%	44.6%	56.0%	16.1%	19.2%	22.8%	20.2%	7.8%	9.3%	11.9%	8.8%	22.3%	24.9%	11.4%	7.8%	2.6%
C:市北東部(N=174)	3.4%	7.5%	45.4%	60.9%	19.5%	24.7%	15.5%	17.8%	5.7%	7.5%	14.4%	6.3%	16.7%	14.4%	16.1%	14.4%	3.4%
D:市中央部(N=188)	1.6%	5.3%	60.1%	54.3%	13.3%	22.3%	11.2%	11.7%	3.7%	13.3%	17.0%	10.6%	26.1%	19.1%	8.5%	10.6%	2.1%
E:市南部(N=205)	4.4%	8.3%	45.9%	54.6%	16.1%	20.5%	18.0%	23.9%	2.9%	8.3%	10.7%	7.3%	12.7%	32.2%	12.7%	11.7%	2.4%

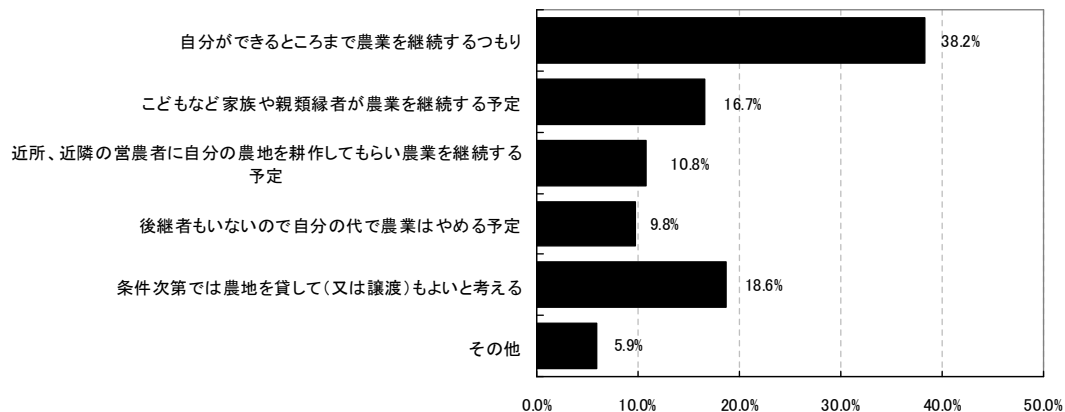
【優先的に取り組むべき施策 (年齢別)】

	田や畑の整備	工業用地の開発	商店街の活性化	病院や高齢者施設の整備	教育文化施設の整備	防災施設の整備	幹線道路の整備	電車やバスなどの公共交通の充実	住宅地の開発	住宅の密集状態の解消	まち並みや景観の整備	公園の整備	雨水排水の整備	公共下水道の整備	自然環境の保全・整備	河川緑地や遊歩道の整備	その他
29歳以下(N=86)	1.2%	2.3%	41.9%	50.0%	16.3%	23.3%	12.8%	32.6%	5.8%	9.3%	23.3%	11.6%	16.3%	14.0%	11.6%	14.0%	7.0%
30歳~39歳(N=125)	0.8%	4.0%	40.0%	36.0%	21.6%	18.4%	20.0%	14.4%	11.2%	13.6%	20.8%	22.4%	17.6%	21.6%	12.8%	12.0%	7.2%
40歳~49歳(N=153)	2.0%	5.2%	51.6%	49.7%	20.9%	24.2%	17.6%	20.3%	3.3%	13.1%	16.3%	7.2%	20.3%	20.3%	8.5%	7.2%	7.2%
50歳~59歳(N=195)	2.6%	4.6%	52.3%	54.4%	16.4%	25.1%	17.4%	14.9%	5.1%	13.3%	20.0%	9.7%	20.5%	12.8%	11.8%	8.7%	1.5%
60歳~69歳(N=239)	4.6%	7.9%	56.9%	62.8%	12.1%	19.2%	14.2%	9.2%	5.4%	8.4%	11.7%	5.9%	16.7%	26.8%	16.3%	13.4%	0.8%
70歳以上(N=195)	3.1%	9.2%	64.1%	62.1%	11.8%	19.0%	16.4%	20.5%	2.6%	5.1%	8.2%	6.7%	16.9%	21.5%	10.8%	9.7%	1.5%

(14) 農業の継続予定（回答者数：102）

農業継続意向で最も多いのは、「自分ができるところまで農業を継続するつもり」（38.2%）であり、後継予定者がいると回答しているのは27.5%である。

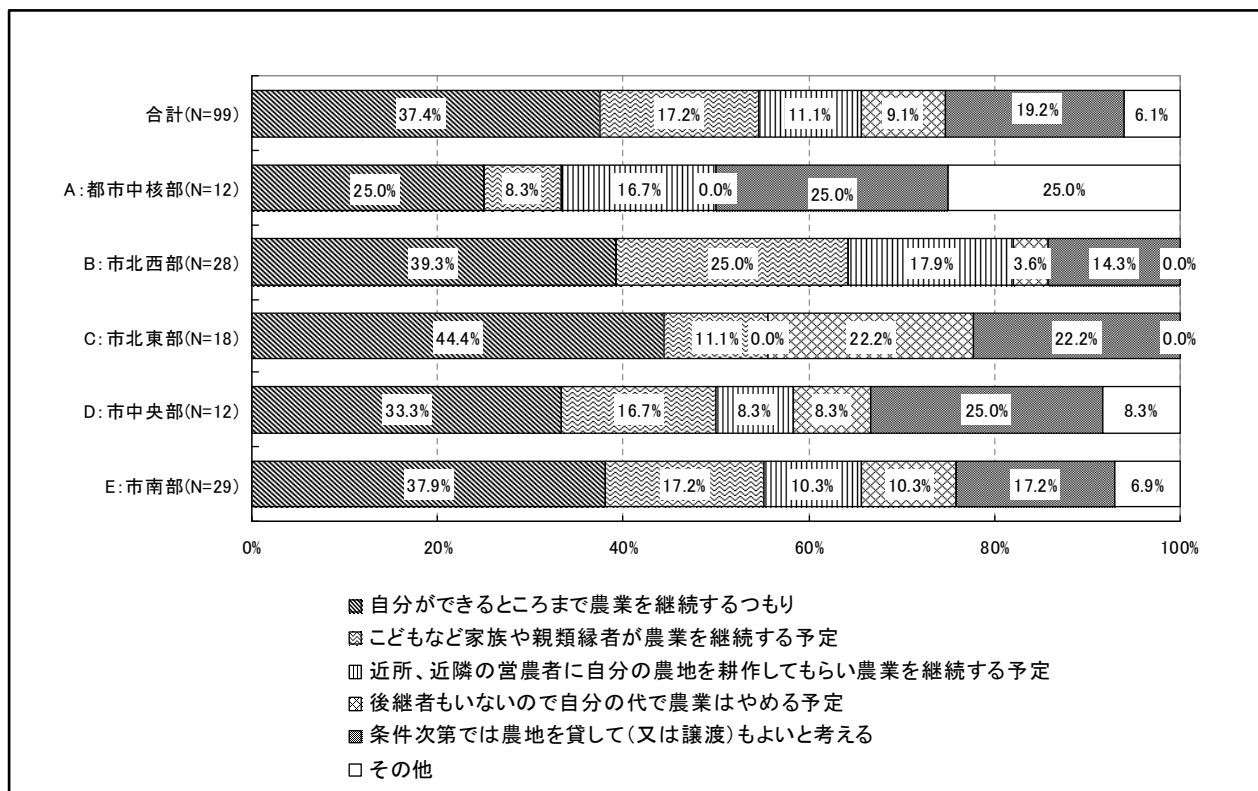
また、農業をやめる、又は農地を貸してもいいとする人は28.4%あり、今後農地の流動化が進むことが懸念される。



「子どもなどが農業を継続する予定」との回答が多いのは市北西部で約25%であり、逆に「自分の代で農業をやめる」とする方は市北東部に多く約22%を占めている。

都市中核部では、条件次第で農地を貸してもよいなどの意見が強い。

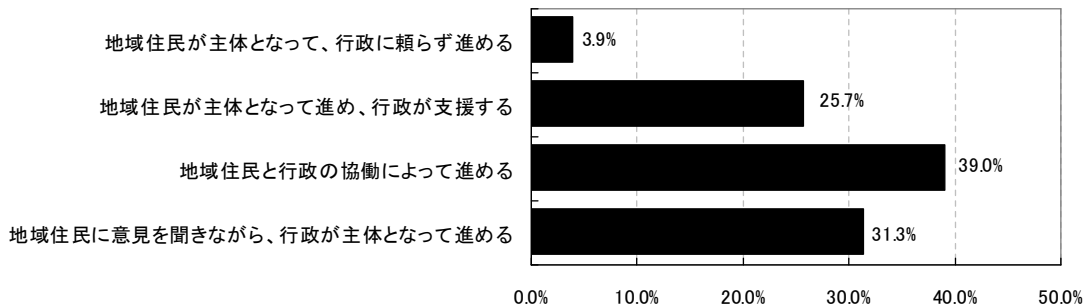
【農地の継続予定（地区別）】



(15) 今後のまちづくりの進め方について（回答者数：968）

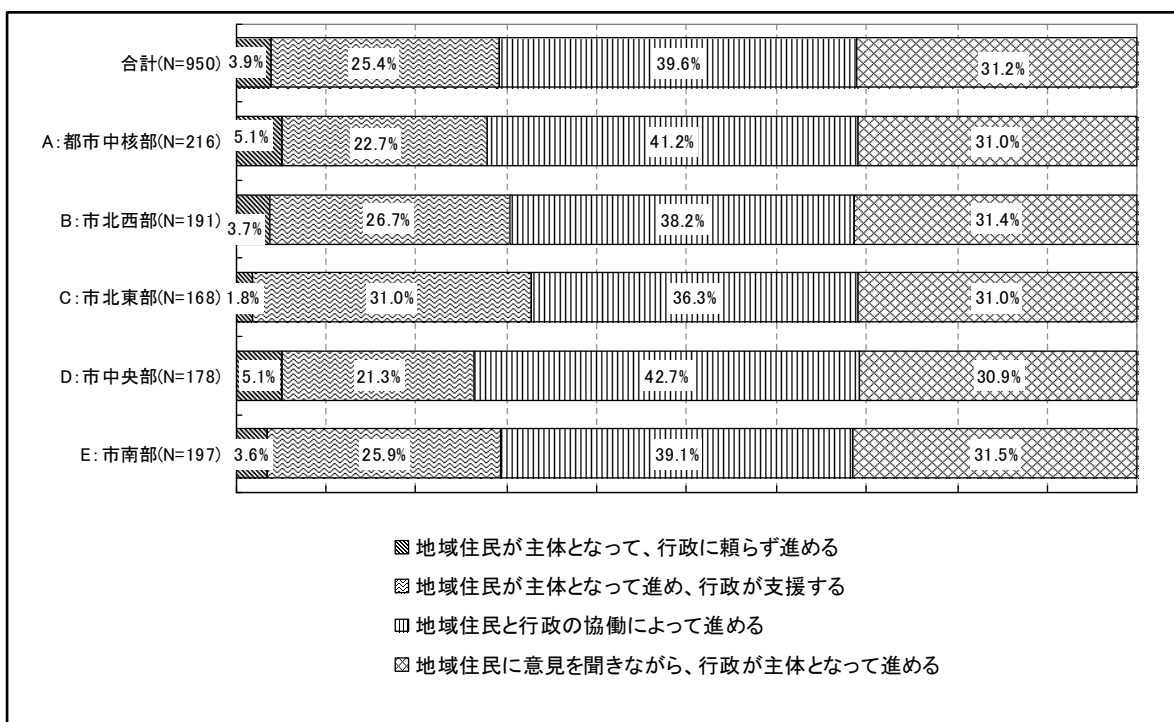
最も多かったのが、「地域住民と行政の協働によって進める」（39.0%）であるが、「地域住民の意見を聞きながら、行政が主体となって進める」というのも31.3%ある。

ただし、「地域住民が主体となって進め、行政が支援する」というのが25.7%あり、住民主体及び協働のまちづくりを合計すると、64.7%となり全体の約2/3が住民主体及び協働のまちづくりを求めていると見られる。



地区別にみると、「協働のまちづくり」の意向が高いのは市中央部（42.7%）、都市中核部（41.2%）で、「住民主体で行政が支援」の意向が高いのは市北東部（31.0%）となっている。

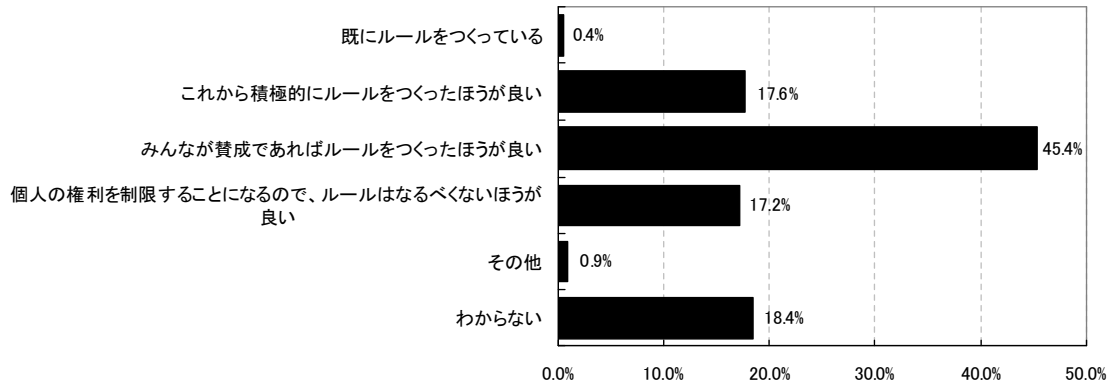
【今後のまちづくりの進め方(地区別)】



(16) まちづくりのルール作りについて（回答者数：973）

この回答は、住みよい環境をつくるため、地区のみなさんが話し合って建物の色彩や、用途、緑化の方針などのルールを決めていくことについて、どう思われますか、という設問に対するものである。

最も多かったのは「みんなが賛成であればルールを作った方がよい」（45.4%）であり、全体の約半数は、十分な説明があり、賛成できるようならルールはあったほうがよいと考えていると見られる。



地区別には都市中核部、市中央部で「積極的にルールをつくった方がよい」と回答している比率が高く、20%を超えている。

「作っている」、「作ったほうがよい」としているのは都市中核部で、約67%と最も多い。

【まちづくりのルール作り（地区別）】

